

5月4日(金)

2018年(平成30年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号

〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

VRで認知症体験

患者理解へ取り組み

東大阪

バーチャルリアリティ（VR、仮想現実）技術を利用して認知症の症状を疑似体験する催しが、東大阪市の府立中央図書館で開かれた。プログラムの制作を手がけたシルバード（東京都港区）の下河原忠道社長（46）が指導・進行役を務め、福祉関係者や認知症患者の家族、図書館関係者ら約50人が参加した。

参加者は、ヘッドマウントディスプレイとヘッドホンを頭と耳に装着。「デイスービスの送迎の車から降りようとするが、まるでビルの上から落ちるかのような錯覚を起こし、強い恐怖を感じる」といった認知症の人たちの感覚を疑似体験した。

下河原さんは「『こころはなりたくない』という偏見だけが残って逆効果。どうやって認知症の人たちと共に生きていけるかを考えたい」と話した。

参加者は、下河原さんの解説を聞いたり、参加者同士で議論をするワークショップを行った。【関西・認知症にやさしい図書館プロジェクト実行委員会】（代表、山川みやえ・大阪大准教授）が主催した。シルバード社は、各地の自治体や学校、企業などで認知症体験のワークショップを開いている。【関野正】



ヘッドマウントディスプレイとヘッドホンを着けて、認知症の症状を疑似体験する参加者
＝府立中央図書館で